



# アークエース 1キロ粒剤

農林水産省登録 第21835号

1/3

令和7年10月29日現在

## 適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	使用方法	本 剤 の 使用回数 ＊	フタクロール を含む農薬の 総使用回数 ＊	A C N を 含む農薬の 総使用回数 ＊
移植水稻	一年生雑草、 マツバイ、 ホタルイ、 ヘラオモダカ、 ミズガヤツリ、 アオミドロ・藻類 による表層はく離	植代後～移植 7 日前 または 移植直後～ノビエ1.5葉期 ただし、 移植後30日まで	1 kg/10a	湛水散布 又は 無人航空 機による 散布	1 回	2 回以内	3 回以内
		移植時		田植同時 散布機で 施用			

＊印は本剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。



### 使用者への被害防止方法

使用者(調製):不浸透性手袋

使用者(散布):農薬用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣



アグロ カネショウ株式会社

<https://www.agrokanesho.co.jp/>



## 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの1.5葉期までに、時期を失ないように散布する。  
なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布する。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ及びアオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが本剤の散布適期である。
- 苗の植付けが均一になるように、整地、代かきはていねいに行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除く。また、未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行う。
- 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも4日間は通常の湛水状態(3~5cm)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
- 田植え同時期に散布する場合は、通常の移植作業と同様の落水下で田植えと薬剤の散布を行い、散布後入水して通常の湛水状態を保つ。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守る。
  - ① 散布は散布機種種の散布基準に従って実施する。
  - ② 散布に当たっては散布機種種に適合した散布装置を使用する。
  - ③ 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整する。
  - ④ 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m以上離れた位置からほ場内に散布する。
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合には、除草効果が低下することがあるので使用をさける。
- 下記のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。特に下記①~③の条件と散布時または散布数日以内の梅雨明けなどによる異常高温が重なると初期生育の抑制が顕著になるので注意する。
  - ① 極端な砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深2cm/日以上)。
  - ② 軟弱な苗を移植した水田。
  - ③ 極端な浅植えの水田及び浮き苗の多い水田。
- 活着遅延を生じるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 水稻が水没するような極端な深水で使用すると薬害を生じることがあるのでさける。
- 本剤散布後の田面水を他の作物へ灌水しない。
- 本剤使用後の空袋は環境に影響を与えないように適切に処理する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 安全使用上の注意



- アレルギー性反応を起こすおそれがある。
- 粉じんを吸入しない。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。
- 汚染された衣服は脱ぐ。
- 作業後は身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- 皮ふに付着した場合、よく洗い落とす。皮ふ刺激または発疹が生じた場合、医師の手当を受ける。





# アークエース 1キロ粒剤

農林水産省登録 第21835号

3/3

令和7年10月29日現在

**治 療 法**…該当なし

**魚毒性等**…水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しない。

水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意する。

散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。

散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

**保 管**…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。



**アグロ カネショウ株式会社**

<https://www.agrokanesho.co.jp/>